



地域日本語支援ニュース こだま 第 401 号

2021.5.13

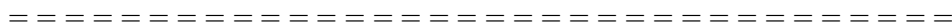


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部: <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■ともに生きる：さいたま市桜区から■

2020 年は感染症拡大により、各地の日本語教室は突然の休会など大変な 1 年であり、今もその状態は続いています。このような状況下、さいたま市桜区の大久保東公民館の職員、相馬暁子さんの熱意で始まり、ボランティアの方々、参加者全員の協力のもと新しく日本語教室が誕生しました。その経緯を相馬さんに、教室の今を代表の浮池（ふけ）順子さん、参加者の馬暁毅（マ ショウイ）さん、講座担当講師にお話しいただきます。

.....

2020 年 12 月誕生

～日本語話そう 大久保東 ともだち～

大久保東公民館職員 相馬 暁子

教室代表 浮池 順子

参加者 馬 暁毅

講座担当講師 松尾 恭子 (AJALT)

◆日本語教室を作りたい —大久保東公民館職員 相馬暁子—

桜区は人口 95,815 人、外国人人口 2,761 人（令和 3 年 4 月 1 日現在）、さいたま市の西にあります。市内には 90 年代から始まり 12 の日本語教室がありますが、大久保東公民館には日本語教室がありませんでした。公民館の隣には県営大久保団地があり、外国人市民も多数います。近くには埼玉大学もあるため多くの留学生とその家族も住んでいます。外国人市民がたびたび「日本語教室はありますか」と訪れ、そこで開設の必要性を痛感しました。

公民館は市民の生涯学習の場所です。普段から各種講座を企画し多くの市民の皆様の学びの場を作ってきました。日本語ボランティア教室は日本人市民が一方的に教えるのではなく外国人市民と日本人市民が共に学ぶ場を作るとというのが 1 番の基本方針でした。

2019 年末に、日本語教室の開設や研修に、長年関わっている松尾講師(AJALT)を紹介していただき、そこから一緒に養成講座の準備に入りました。

日本語を教えるには講座が 10 回くらいは必要だと思っていましたが、松尾講師に 4 回くらいで大丈夫、あとは活動しながら整理しましょうと言われて目からウロコでした。

- ・ 2020 年 3 月末
養成講座（3 回）実施を計画、
しかし 1 都 3 県への緊急事態宣言のため講座延期。
- ・ 2020 年 10 月
「日本語ボランティアってなに？」3 回を実施、予想を超えて 20 人が受講。
地域に根差した内容で、その行う意味を十分に理解できる講座でした。
この講座の終了後、担当者として今後は日本語教室をサークルとして継続する意義や必要性を話しました。「活動に参加します！」とほとんどの受講者が手を挙げてくれました。
- ・ 2020 年 11 月
毎週打合せをし、代表、副代表、会計がすぐ決まり具体的に進みました。
- ・ 2020 年 12 月 26 日
日本語教室第 1 回目の開始。対面で実施し学習者 9 人を迎えました。
- ・ 2021 年 1 月 7 日
1 都 3 県に緊急事態宣言発令。
- ・ 2021 年 1 月 9 日
オンラインと会場を結んで 2 本立てで実施。
その後はオンラインのみの時期あり、両方を同時進行の時期あり、工夫をし

ています。

こうして様々な人が学びあう場所が誕生しました。ゼロから始まり、短期間でここまで実現したことは、全員の力が目的に向かって結集したからだと思います。

4月、毎週土曜日オンラインに10人以上の外国人参加者、会場にも数人が集まり活動をしています。新型コロナウイルスの感染状況は厳しいものがありますが、随時対策をしながら、よりよい活動をしたいと思います。

～外国人参加者～

仕事をしている方

お店の経営者

大学院生とその家族

小学生の子供も一緒に家族での参加

中学生

技能実習生

～ボランティア参加者～

大学生

お子さんのクラスに外国人児童がいるので協力したいというお母さん

小中学校で日本語指導員をしている方

互いの文化を学びあい会話しながら役立ちたいという方

◆走り出して4か月 ―教室代表 浮池順子―

最初の講座から半年、会のスタートから4か月が経ち、すっかり毎週末の活動が生活の一部になりました。ボランティア活動と言うと「人のために何かする」ものだと思っていましたが、実際に始めてみると私たちボランティアにとっても学ぶことが多く、また楽しみにもなっています。新型コロナウイルスの流行で制限の多い中、ここまで続けて来られたのは、メンバーの熱意と松尾先生、相馬さんのサポート、そして参加者の皆さんの笑顔のおかげです。これからも、外国人参加者さん、日本人ボランティアが共に成長できる会でありたいと思っています。

◆参加者 ―馬曉毅さん（中国）の声―

「すぐ近くにできたことがとても嬉しいです。今まで、バスに乗って教室に

行っていました。土曜日、お店の休み時間に教室に来て、みんなとの会話が楽しい。去年の12月から今までに、日本語上達しました。話すのは時々難しいです。聞いてわかります。感動です。みな“ともだち”、わかります。」

◆講座担当講師　－松尾恭子（AJALT）－

毎週土曜日午後、オンラインの画面に、代表、浮池さんの「こんにちは、私たちは“ともだち”です。元気でしたか。」の言葉が聞こえます。私も参加者の生き生きとした顔を見たくて、オンラインで皆様に会いにいらしています。

昨年の養成講座では毎回外国人ゲストを招きその声を聞きました。そして重視したことは次のことでした。誕生したこの教室、通称“ともだち”を、この場所に集う皆様と共に、大切にしていきたいと思います。

- 1.生活に根づいた場面を重視してその人に向き合う活動
 - 2.教科書を使わないけれど会話をしながら大切なポイントを身につけてもらう工夫
 - 3.お互いが知り合う、会話を楽しむことが根底にあること
 - 4.毎回、外国人市民に参加してもらい、その声を聞き、会話をすること
-